

# 大磯の賢人 吉田茂

## 惜別のとき

吉田茂死去の知らせに、昭和42年10月20日・21日、大磯の吉田邸には、佐藤栄作、岸信介、画家の安田靫彦など、錚々たる面々が相次いで弔問に訪れ、吉田の生前の幅広い人脈と絶大な影響力を偲ばせました。

吉田茂は「皇室と国民は一体不可分」であり、神道は「皇室の宗教であり国民の宗教である」（『回想十年』第四巻）という神祇観・国体観を持っており、明仁親王の立太子礼の式典の際、自らを「臣茂」と称したことも有名です。しかし意外にも死の直後、生前の希望によりカトリックの洗礼を受けています。洗礼名は「ヨゼフ・トマス・モア」。「ヨゼフ」は吉田が望んだネームで、「トマス・モア」は『ユートピア論』で知られる英国人政治家の名前です。雪子夫人や長女の麻生和子氏はカトリック信者であり、吉田自身、東京カテドラル聖マリア大聖堂の後援会の会長を引き受けたこともあります。吉田に洗礼を授けた司

教によれば、吉田は生前「元氣なときはともあれ、死にそうになったら、洗礼をうけて『天国泥棒』をやってやろう」（『アサヒグラフ』臨時増刊11月5日号「緊急特集吉田茂の生涯」と言っていたといえます。

国葬に先立ち、10月23日東京カテドラル聖マリア大聖堂でカトリックによる内葬が行われました。内葬とはいえ約1,500人もの参列者が駆け付け、私人・吉田茂を見送りました。その後、幡ヶ谷火葬場の特別室で荼毘にふされ、遺骨となった吉田は大磯の邸宅に帰ったのです。

10月31日、遺骨は長男の健一氏の胸に抱かれ、最愛の地・大磯に永遠の別れを告げました。

大磯町内では早朝から軒ごとに日の丸半旗が掲げられ、吉田邸から東京へ向かう東海道沿道には、大磯町内の小学校や中学校の児童・生徒をはじめとする1万5千人もの町民が列をなして見送り、吉田に最後の別れを告げました。見送りの列は平塚市内まで延々と続いたといいま

す。大磯町民の吉田に対する尊敬の念と愛情、そして死への深い悲しみがうかがえます。

この日、日本武道館で執り行われた戦後初となる国葬には、遺族をはじめ、当時の皇太子御夫妻・各皇族、政界関係者、外国使節団が参列したほか、一般会葬者が4万人にもものぼり、供えられた菊の花によって式壇は埋め尽くされました。

国葬で葬儀委員長を務めた佐藤栄作首相は弔詞の中で吉田を次のように評しました。「花を愛し、人を愛し、こよなく人生を楽しむ、そして何ものにもまして祖国日本を愛し、誰よりも日本人としての自負心を抱いていた」——日本のため、一途に戦い続けた愛すべきワンマン宰相・吉田茂は、現在雪子夫人と共に青山墓地で永遠の眠りに就いています。



▲国道で霊柩車を見送る国府中学生 (大内博氏撮影)

◎問い合わせ 郷土資料館  
臨時学芸員 曾根田  
☎(61)4700

## 旧吉田茂邸再建基金寄附者一覧②(8月12日～9月2日)

9月2日現在、総額24,536,626円の寄附をいただきました。ご協力ありがとうございました。

(寄附受付順、敬称略)

寄附者氏名	市町村名	寄附金額
匿名	平塚市	※※※※※
高橋 和雄	大磯町	¥50,000
松崎 善昭	大磯町	¥10,000
匿名	大磯町	¥20,000
西巻 邦子	大磯町	¥10,000
西巻 國夫	大磯町	¥10,000
有限会社松月	大磯町	¥50,000
匿名	大磯町	¥50,000
中辻 博尊	大磯町	¥20,000
匿名	大磯町	¥10,000
匿名	平塚市	¥20,000
奥崎 優子	大磯町	¥20,000
沢地 正平	小田原市	¥10,000
渡辺 正平	大磯町	¥10,000
古正 英男	大磯町	¥10,000
二宮 恭平	大磯町	¥100,000
伊澤 福松	大磯町	¥50,000
株式会社エス・ケイ・ディ	平塚市	¥10,000

寄附者氏名	市町村名	寄附金額
小谷 コノミ	大磯町	¥50,000
池田 久男	茅ヶ崎市	¥10,000
匿名	大磯町	¥10,000
匿名	大磯町	¥10,000
匿名	大磯町	¥10,000
山口 勝	※※※※※	※※※※※
秋山 民野	埼玉県川口市	※※※※※
大磯町区長連絡協議会	大磯町	¥240,000
匿名	大磯町	¥10,000
匿名	大磯町	¥30,000
佐々木 邦夫	大磯町	¥10,000
匿名	大磯町	¥10,000
匿名	大磯町	¥20,000
大石 浩準	小田原市	¥30,000
主代 誠	藤沢市	¥10,000
匿名	大磯町	¥200,000
匿名	大磯町	¥3,000
匿名	大磯町	¥1,000,000

◎問い合わせ 都市計画課 ☎内線243